

2026年5月13日

2026年度の鉄道事業設備投資に総額438億円

～「日本一安全でサービスの良い持続可能な交通」の実現を目指し、

ホームドア全駅整備・自動運転（ワンマン運転）に向けた設備の導入を進めるとともに、

大規模事業の着実な推進や、移動需要創出に向けた新たなサービス等に取り組みます～

京王電鉄株式会社（本社：東京都多摩市、取締役社長：都村 智史）では、京王グループ理念である『信頼のトップブランド』の確立を目指し、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり」を進めています。鉄道事業においては、あらゆるお客さまや沿線にお住まいの方に信頼され、愛される鉄道になるため、「安全性の向上」や「サービスの向上」などに取り組んでいます。

2026年度も引き続き、「日本一安全でサービスの良い持続可能な交通」の実現を目指し、ホームや踏切道における安全対策、大規模災害への備えに取り組むほか、連続立体交差事業をはじめとする大規模事業を着実に推進します。あわせて、ワンマン運転に向けた自動運転設備の導入・改修や京王ライナーにおける新たなサービス提供など、AI等のデジタル技術を活用し、安全性やサービスの向上を図ります。これらの取り組みに向けて、2026年度は総額438億円の設備投資を行います。

【主な取り組み】

1. 信頼の源泉としての安全・安定性の維持・向上

- (1) ホームドア全駅整備に向けたホーム安全対策
- (2) 踏切道における安全対策
- (3) 大規模災害に備えた耐震補強や豪雨対策
- (4) 老朽インフラ対策

2. 長期的な価値を創出する大規模事業の着実な推進

- (1) 京王線 連続立体交差事業の推進
- (2) 駅改良および開発プロジェクト

3. 持続可能な事業運営体制の構築とサービスの高度化

- (1) 自動運転（ワンマン）化に向けた自動運転設備の導入・改修
- (2) 現業職場における業務改善および業務改革の推進
- (3) 車両の増備と既存車両のリニューアル
- (4) さらなるバリアフリー化の推進

4. 移動需要創出と鉄道アセット活用による増収施策の推進

- (1) ダイヤ改正
- (2) 京王ライナーにおける新たなサービス
- (3) 外部との連携による人流創出

5. 脱炭素・循環社会への貢献

- (1) さらなる消費電力削減に資する装置の新設および更新

1. 信頼の源泉としての安全・安定性の維持・向上

(1) ホームドア全駅整備に向けたホーム安全対策

① ホームドア整備

お客さまのホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を未然に防止するため、井の頭線は2020年代中頃（～2027年度）、京王線は2030年代前半にホームドアの全駅整備を行います。2026年度は新代田駅、幡ヶ谷駅、稲城駅など7駅の整備を進めます。



《ホームドア(高井戸駅)》

供用開始年度	対象駅（予定）
2026年度	新代田駅/西永福駅/井の頭公園駅/幡ヶ谷駅/仙川駅/北野駅/稲城駅
2027年度	明大前駅（井の頭線）/初台駅/つつじヶ丘駅/柴崎駅/若葉台駅/京王多摩センター駅
2028年度	府中駅/高幡不動駅/長沼駅/京王八王子駅/京王永山駅/府中競馬正門前駅/めじろ台駅/狭間駅/高尾駅/高尾山口駅
2029年度以降	代田橋駅/明大前駅（京王線）/下高井戸駅/桜上水駅/上北沢駅/八幡山駅/芦花公園駅/千歳烏山駅/西調布駅/武蔵野台駅/多磨霊園駅/東府中駅/中河原駅/分倍河原駅/聖蹟桜ヶ丘駅/百草園駅/南平駅/平山城址公園駅/京王片倉駅/山田駅/京王稲田堤駅/京王よみうりランド駅/京王堀之内駅/南大沢駅/多摩境駅/橋本駅/多摩動物公園駅

《ホームドア整備スケジュール(予定)》

② ホームと車両の段差・隙間対策

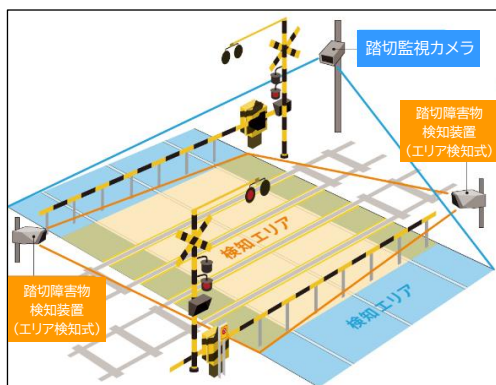
ホームと車両の段差・隙間を縮小するため、ホームドアの整備に合わせて全駅で対策を進めます。2026年度は新代田駅、幡ヶ谷駅、稲城駅などの整備を進めます。



《転落防止ゴム設置の様子》

(2) 踏切道における安全対策

踏切事故の未然防止を目的として、踏切道に新設したカメラで、踏切道およびその周辺のリアルタイム映像をAIで解析して不審者の侵入を早期に検知するための検証を開始しました。今後、踏切道へのカメラの設置を拡大するとともに、検知精度向上を図ってまいります。



《踏切道内外検知イメージ》



《踏切道AIカメラ映像(イメージ)》



《高架橋躯体(明大前～下高井戸駅間)》



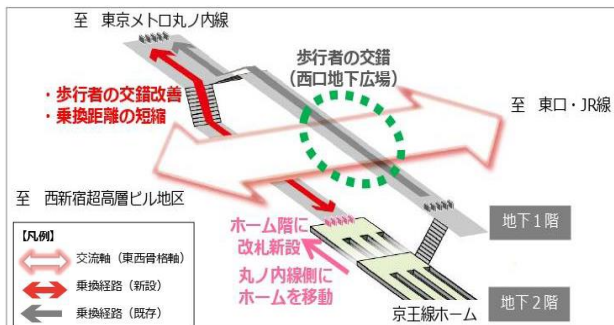
《高架橋躯体(千歳烏山～仙川駅間)》

また、京王線（仙川駅～国領駅付近）連続立体交差事業については、2026年4月、本事業区間を国から新規事業採択箇所として着工準備採択されております。引き続き、事業主体である調布市と連携し、事業着手に向けた取り組みを推進してまいります。

（２） 駅改良および開発プロジェクト

① 京王線新宿駅改良工事

京王線新宿駅の地下2階ホームを東京メトロ丸ノ内線側へ延伸するとともに改札口を新設することにより、地下2階のホーム階から東京メトロ丸ノ内線へ乗り換え可能な動線等を整備します。これにより、新宿駅西口地下広場における乗り換え時間の短縮等を目指します。2031年度の工事完了に向け、2026年度は既設躯体の解体工事等を進めます。



《改良工事(イメージ)》



《延伸部(イメージ)》

② 京王多摩川駅改良工事

京王多摩川駅前周辺の開発事業に合わせ、京王多摩川駅においても、エレベーター大型化やお客さまトイレ改修のほか、ホームドア整備やホームと車両床面の段差隙間の縮小など、バリアフリー機能を強化する駅改良工事を2026年度に完了します。



《開発事業 街区全体イメージ》



《京王多摩川駅改良後(イメージ)》

3. 持続可能な事業運営体制の構築とサービスの高度化

(1) 自動運転（ワンマン）化に向けた自動運転設備の導入・改修

将来予測される生産年齢人口減少や働き方改革がさらに進行した事業環境下においても、鉄道輸送の安全およびサービスレベルを確保しながら持続可能な鉄道事業を目指すため、自動運転設備を活用したワンマン運転を実施します（井の頭線は2020年代後半、京王線は2030年代中頃予定）。2026年度は、井の頭線の地上設備整備の進捗を踏まえ、自動運転の実証試験区間を拡大するとともに、車両工事を推進してまいります。



POINT 01

ホームの安全を運転席からモニターで確認！

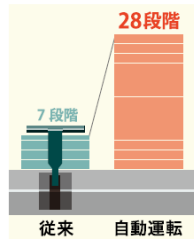
これまで車掌が行っていたホームの安全確認とドアの開閉を運転士がモニターで確認し、操作



POINT 02

より人の操作に近いブレーキ技術！

ブレーキ制御機能を従来の7段階から28段階にすることで、人の操作に近い停止精度と乗り心地を実現



POINT 03

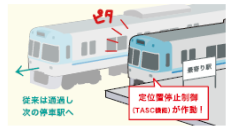
トラブル発生時にはボタンひとつで！



運転士がボタンを押すだけで



車内ビジョンに「近くの駅に停車します」とご案内



最寄りの駅の定位位置に自動で停車

《自動運転 車体特徴と概要(ポイント)》

(2) 現業職場における業務改善および業務改革の推進

① 新たなご案内システムの導入

駅におけるAIアバターや遠隔によるご案内システムの導入に向けて、AIの高度化と導入駅の拡大について検討を進めます。2026年度は、引き続き設備の導入を推進します。



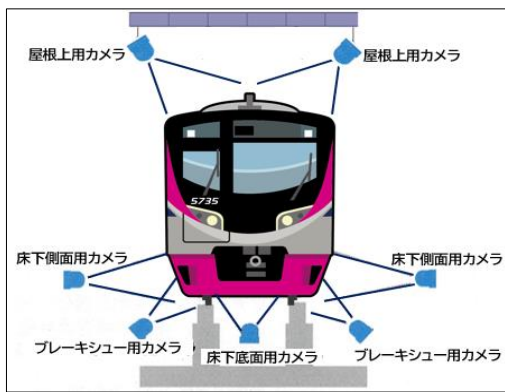
《遠隔案内装置とAIアバター駅係員》



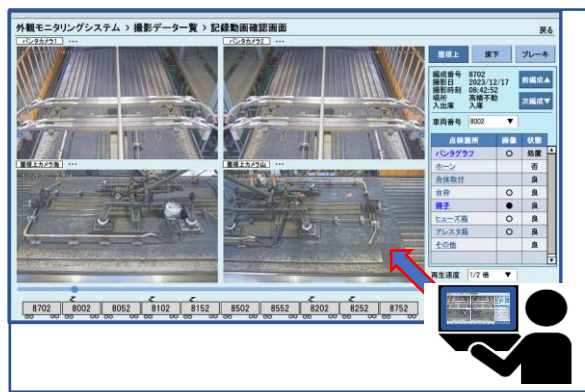
《AIアバター駅係員お客さま画面》

② AIカメラによる車両の外観点検

保守業務の効率化・高度化の実現に向けて、車庫内で目視で行っている列車点検を、屋根上・床下に設置したカメラの映像による点検に置き換えるシステムの導入を推進しています。AIが要点検箇所を抽出し、異常の有無を自動判定することで、作業の安全性や点検精度向上、効率化を実現するシステムの構築を推進します。将来的には、営業線で実施することを視野に入れ、技術検証を進めてまいります。



《AIカメラによる外観点検イメージ》



《画面イメージ》

(3) 車両の増備と既存車両のリニューアル

① 新型通勤車両「2000系」の増備

新型通勤車両「2000系」では、あらゆるお客さまが安全・快適に鉄道をご利用いただけるよう、5号車に「ひだまりスペース」を設置しております。2026年度は2編成を導入します。



《2000系車両(外観)》



《ひだまりスペース》

② 通勤車両「9000系」のリニューアル

通勤車両「9000系」のリニューアルでは、すべての車両にフリースペースを設置したほか、一般座席の縦握り棒の増設と、優先座席の縦握り棒にディンプル加工（滑り止め加工）を施しております。2026年度は1編成をリニューアルします。



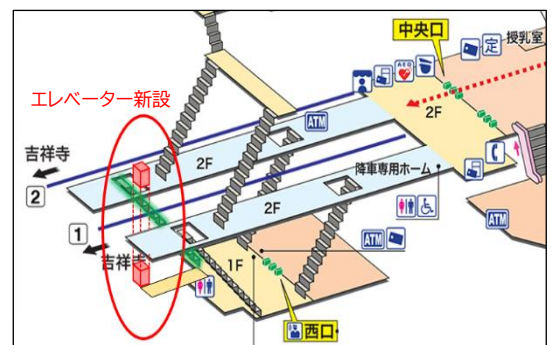
《一般座席縦握り棒増設》



《優先座席ディンプル加工》

(4) さらなるバリアフリー化の推進

あらゆるお客さまが安全・安心・快適にご利用いただけるよう、駅構内のバリアフリー化を進めております。2026年度は、渋谷駅西口改札階とホーム階を結ぶエレベーターを新設し、バリアフリールート2ルート目の整備を完了します。なお、エレベーターによる改札口とホームの段差解消や、目の不自由なお客さまの誘導や注意喚起をする点状ブロックを整備したバリアフリールートの1ルート目の整備は、全ての駅で完了しております。



《渋谷駅バリアフリールート2ルート目整備》

4. 移動需要創出と鉄道アセット活用による増収施策の推進

(1) ダイヤ改正

所要時間短縮に向けた抜本的なダイヤ改正に必要な整備を進めます。

(2) 京王ライナーにおける新たなサービス

現在の均一料金を需要に応じた適正価格へ見直すなど、柔軟な運用を可能とするシステム改修を進めます。

(3) 外部との連携による人流創出

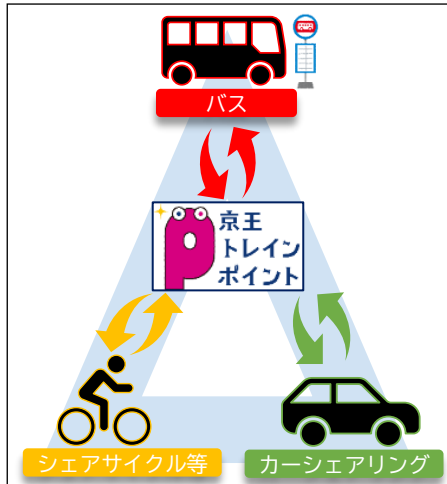
沿線施設や二次交通、スポーツイベントなどとの連携を通じて、新たな移動需要の創出と沿線活性化に取り組みます。京王アリーナTOKYOなど沿線施設の利用で京王トレインポイントを獲得できる各種キャンペーンを実施することで、移動需要の創出を図ります。加えて、バスなどの二次交通との連携を可能とするシステム改修を進めます。



©Pokémon. ©Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.

ポケットモンスター・ポケモン・Pokémon は任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの商標です。

《ラッピングトレイン》



《二次交通とのポイント連携(イメージ)》



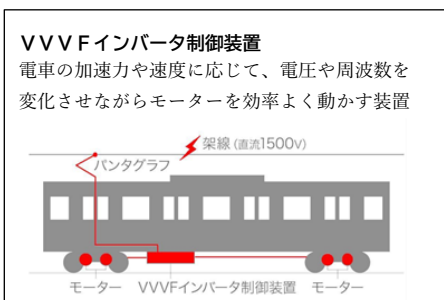
《スポーツとのポイント連携》

5. 脱炭素・循環社会への貢献

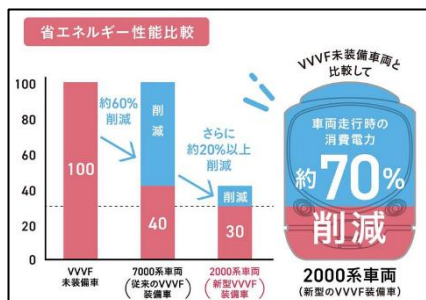
(1) さらなる消費電力削減に資する装置の新設および更新

① 運転用電力の削減

全営業車両で環境性能の高いVVVFインバータ制御化を完了しておりますが、さらに省エネ性能の高いVVVFインバータ制御装置へと更新し、運転用電力を削減します。2026年度は、通勤車両「8000系」10両編成の1編成を実施するほか、新型通勤車両「2000系」では、最新の省エネ半導体（フルSiC素子）を用いた新型のVVVFインバータ制御装置を導入します。また、通勤車両「9000系」のリニューアルでは、最新の省エネ半導体（フルSiC素子）を用いた新型のVVVFインバータ制御装置やSIV装置（車両用補助電源装置）の更新により、消費電力のさらなる削減を図ります。さらに、車両機器情報データを活用し、京王線での省エネ運転を進めます。



《インバータ制御装置概要》



《省エネ性能効果(2000系車両)》



《省エネ運転設備(イメージ)》

② 照明器具の省エネルギー化

従来の照明設備に比べて大幅に消費電力を削減できるLED照明の導入を進めています。2026年度は現業職場照明のLED化工事などを実施します。

【参考】SDGsへの取り組みについて

SDGs (Sustainable Development Goals) は、持続可能な世界を実現するために、2030年に向けた開発目標です。

京王グループは、この持続可能な開発目標を取り入れ、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを目指します。